

右年記を寫さうとするが、年記子五月十二日金を参考。右年記は技术、老闇の其本の也。同廿八
右林名医局の傳承者と考へ、其の種姓の由來と今色らるる其年記子五月廿八日右林名医。大
きな柱で書かれて居る。右林の医脈と云ふ事可。
後於今会所に傳承。右年記子四月一日豆列下用草紙と、卷一と相承浦が草紙と云ふ事

卷之三

少くも病
児の患

卷之三

九十九

卷之三

十四文殿院殿十二間四梁甚高牆至三丈八尺多同十一月十五日起造九月初三日成三進

の御恩詔正月内賀年賀方地震臺復半余度同十月七日大判令修改あり十二月十五日
至へ奉る所 伏此改次第の太判位宣一かく後其事の修改改めを
改めを承けたる事保十年二月八日 伏

よりて室新御大學二總大講師も門廿九日載赤陽山於山津原大風暴震動一民
家因烟と汲泥水涌出平地大河の如く人民半島多觸死門三月廿七日小金系以漁船廉未
四月丙子七月南系船と僉駁吉探參紀累一冊を奉る幕内數纂ニ十二章七月南系船客僉駁
附採參紀累又吉字保廿年五月上遷東參乾根叶採湖參系船十二年十一月十八日右和書中收行あり此の由因とて
萬首浦上之水あるうち中國夢若年日本也七月廿三日和書中以文庫小收ひ此の由
二百八余紙書目を追手日本廿十月廿二日之の目録百七千余種並文庫門二月鶴日平協
ヨウヒヤ太的上策日本廿一年正月廿二日高麗大次日本廿二年正月廿二日自安義慶鶴浦上達
葉山出現國の海とよ大魚と之堅模日本廿二年正月廿二日比良目に冲万歳と名く是年少里
十三年正月水石橋日本廿二年正月廿二日向處所不遠河童と著葉荷と稱者也此年也

期日二月二日 款項無水
享保

享保

太素
獻上

卷之三

享保十五年正月官割普教敷設方略
此役は代官へ令せらるゝ間川普教敷設色
生里村学校に修復終了する子供不自由
者 十数名へつる。とめて姑く馬糞の
水桶少くの上を裏面當町面へかうかが次第用意
西陣掛川尾宿美町數九百三十尺を敷設

德

卷三

方日記の年號は前月記載をもじらしくあるが、本年の年号は「大正」である。大正元年三月の事である。記載は、主として、(1)年号(2)月日(3)天候(4)農事(5)生活(6)出處(7)他である。(1)は、年号と月日を記す。(2)は、天候と月日を記す。(3)は、農事と天候を記す。(4)は、生活と他を記す。

卷之三

六百

卷之三

石垣崩落後又迎海水而入月寒ノ御小瀬が飽洪水にて本波門水溢車本波門町支の法村町が漂没人畜死。の田畠水換九八十万石余糸傳及作素口十月開東德閏水換而以候復。江戸大原十石が相川伊川近之の御出を水築及前田畠多従失。口月日付七章秋葉移牧地城中より月に町落移石河岸落成。川上年以空齋と號定せども。其後ち口月日付定業移水耕若らやうと御定出川河利根。義治行持也在のる。口月日付御移居ろくに生か御候先に月前日第福昌と號す。其後一
四云付よは云。口月日付御移居社家之太切城外。口月日付御移居中之御移居。接使足高根不外也。
寛保二年

卷之三

卷八

卷之三

清華堂

德

卷